

千葉県「木更津市」

というまちに興味を持ってくださった皆様へ

有機農業推進の取り組み

木更津市

～未来につながるまち オーガニックシティ木更津～

経済部農林水産課 発行

R5.3



もくじ

01	まちのようす	P1
02	このリーフレットを手にとってくれた方へ	P5
03	木更津市の農業	P6
04	これまでの有機農業推進の取り組み	P7
05	生産関連の取り組み	P8
06	流通・加工関連の取り組み	P9
07	消費関連の取り組み	P11
08	オーガニックビレッジ宣言	P13



都会から一番近い田舎…

(アクアラインと干潟)



ゆっくりとした時間が流れる…

(きさらづ CAMP in MITATE)



活気あふれるまち…

(まつりの風景)



人とのつながりがある…

(ORGANIC/CITY FESTIVAL)



楽しいがある...



(道の駅「木更津 うまくたの里」)



新しいがある...

(鳥居崎海浜公園)

懐かしいがある…



(田園風景)

大好きなまち…木更津



(JR 木更津駅 階段アート)

このリーフレットを手にとってくれた方へ

木更津市は、市民一人ひとりが自立し、つながり、自然や経済が循環する、人と自然が調和した持続可能なまちづくりを目指す一環として、学校給食で提供されるご飯の有機化※₁を軸に、有機農業の推進を進めてきました。

このリーフレットは、国が「みどりの食料システム戦略」を策定したことを契機に、本市がさらなる有機農業の推進を図り、2023年の「オーガニックビレッジ宣言」※₂に至るまでの1年間の取り組みを紹介しています。

ご覧頂いた方が、木更津市というまちにさらなる興味を持ってくだされば幸いです。

※1 公立小中学校で提供される給食のご飯に、農薬・化学肥料を一切使用せず栽培したお米を提供する取り組みで、2019年(令和元年)からスタートし、2022年(令和4年)は給食でご飯が提供される日(約134日)の約5割に達しています。

※2 オーガニックビレッジとは、有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取り組みを進める市町村のことです。



木更津市の農業

木更津市では、里山や里海の豊かな自然環境を活かして、様々な野菜や果物などが生産され、市内外の消費者に届けられています。

また、生産された農産物を利用して加工品をつくる6次産業化も進められており、開発された商品は市内にある道の駅等で販売されています。

消費についても地産地消や食育の推進を図るため、2022年から地場産農林水産物を取り扱う店舗等のPRのため、「地産地消推進店認定事業」を開始しました。

樹園地 40ha

3%

畑 153ha

12%

田 1,078ha

85%

市内の耕地面積内訳
(2020年農林業センサスより)

また、耕地面積に占める田んぼの割合が高く、市内の様々な場所で田園風景が残っており、稲の生長だけでなく、季節により特色のある自然が見られることで、四季を感じさせてくれます。

また、お米の消費拡大に向けて「木更津産米を食べよう条例」(2016)を制定し、JA木更津市と連携して市内産米のブランド化を目指し「木更津産米食味分析コンクール」も開催しています。

これまでの有機農業推進の取り組み

①学校給食米の有機化へ（「きさらづ学校給食米」の誕生）

2019年、食や健康に対する消費者の意識が向上し、有機農産物の需要が高まるなか、市内30校の公立小中学校に農薬・化学肥料を使用しないお米を提供する取り組みが、5人の生産者の協力のもとスタートしました。

現在は生産者が14人まで増え、また、関係機関の協力もあり、主食がご飯となる約134日のうち、およそ70日以上提供できる量のお米が生産されるようになりました。

この取り組みで生産されたお米を「きさらづ学校給食米」と名付けました。

②木更津発のオーガニックブランド創出

本市で生産されている農産物の付加価値を高めるため、オーガニックブランドの創出を目指して、生産者が有機JAS認証を取りやすくするための環境づくりを行っています。

有機JAS認証を取得した農地で、パッションフルーツ、ブルーベリー、れんこん、お米、野菜など様々な農産物が生産され、さらに市内にはオーガニックレストラン認証店もあります。

生産関連の取り組み

①さつまいもと大豆の有機的管理の実証

目的

- ・ 農薬、化学肥料を一切使用しない栽培方法の実証
- ・ 実証結果の周知による有機農業の拡大

結果

- ・ 与えたのは有機肥料 1 回と水のみです
- ・ さつまいも約50kg収穫
- ・ 大豆約100kg収穫

その他

- ・ 収穫した作物は味噌作りや市内小学校の教材として提供し、食育に活用しました。
- ・ 畑面積 さつまいも：約30㎡、大豆：約900㎡

②「きさらづ学校給食米」の収量UPを目指した土壌診断

目的

水稻の有機栽培に適した簡易土壌診断キットにより、「きさらづ学校給食米」を栽培している田んぼの土壌診断を実施し、適切な肥料施用をサポート

結果

協力生産者の田んぼの土壌診断を実施し、肥料施用の参考にいただきました。

③有機JAS認証指定講習会の開催

目的

市内生産者を対象に、有機農産物の生産工程管理者の有機JAS認証を取るために必要な指定講習会の開催

結果

8 名の方に参加いただきました。
今後、共に有機農業を進めていけることを期待しています。

加工・流通関連の取り組み

①きさらづ学校給食米を活用した調味料(みりん)の製造

目的

「きさらづ学校給食米」のうち、粒が小さく学校給食に提供出来なかったお米を活用したみりんの製造

結果

100kgの原料から60本(1.8ℓ/本)のみりんが製造できました。

その他

完成したみりんは、学校給食への提供など食育に利用します。

②市内で生産された有機農産物を活用した新商品の開発(産学連携)

目的

市内有機農産物のPR・地産地消・6次産業化

開発者

株式会社 KURKKU FIELDS

環境の負荷軽減を目指す循環型農業を実践し、オーガニックレストラン認証も取得しています。

千葉県立木更津東高等学校

社会に貢献できる人材育成のため、地域産業との連携事業を行っています。

特徴

有機農産物のJAS認証を取得している KURKKU FIELDS で生徒さん自ら参加して生産から収穫まで行ったさつまいもを使用して商品開発を行いました。

開発商品

① 苗(いち)から育てたさつまいもそのまんまクッキー
たべてほっこり紅温菓(ベにはるか)

② ほんわりさつまいもニョッキ〜クリームソース仕立てチップスを添えて〜

結果

商品はイベントや KURKKU FIELDS で、期間限定販売され、有機農産物のPRをしました。
※現在は、販売しておりません。

③市内で生産された有機農産物を活用した土産品の開発

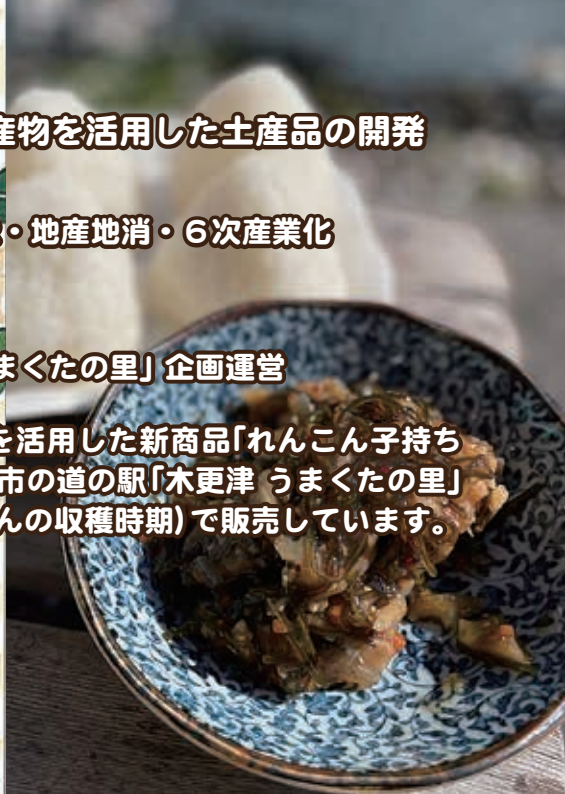
目的 市内有機農産物のPR・地産地消・6次産業化

開発者 株式会社 TTC
道の駅「木更津 うまくたの里」企画運営

開発商品 市内産有機れんこんを活用した新商品「れんこん子持ち昆布」を開発。木更津市の道の駅「木更津 うまくたの里」にて季節限定(れんこんの収穫時期)で販売しています。

木更津産のジャキジャキれんこんを
昆布、数の子、にんじんと合わせました

 ORGANIC CITY KISARAZU
未来につながるまち



④市内で生産された有機農産物を活用した新メニューの開発

目的 市内有機農産物のPR・地産地消・6次産業化

開発者 株式会社ごはんクリエイト

開発商品 市内産有機れんこんとブルーベリーを活用した、「GBLファームの有機レンコンと木更津の恵みポークのハンバーガー」を開発。
市内にある飲食店「舵輪」にて季節限定(れんこんの収穫時期)で提供しています。また、レシピについても木更津市のホームページで公開しています。



消費関連の取り組み

①自校炊飯の実証

目的

地産地消、域内消費、食育、フードロス

内容

きさらづ特認校(鎌足小・中郷小)において、地域で収穫された「きさらづ学校給食米」を給食室内で炊飯し、温かいご飯(炊き上がり1時間以内、60℃前後)を提供することで残食を減らせるか実証しました。

※市内公立小中学校のご飯は、炊飯、配送を市外事業者にて委託しております。

結果

残食率が3%~6%減りました。

また、学校給食に炊き立ての「きさらづ学校給食米」を提供すると共に、その生産過程を栄養士が児童に伝えたことで、児童から「炊き立てで出してくれる給食のお米はおいしいし、地元の人々が作っているから地産地消で良いと思う。」「いつものお米もおいしいけど、自分の住んでいる所で取れたお米の方がおいしく感じた。」という感想があり、児童に生産者への感謝の心が生まれ、食育にもつながりました。

②大学生団体による市内小学生への食育・環境を考える授業の実施

目的

子どもたちの食育、環境、SDGs への理解増進

内容

「環境と食」をテーマに活動する学生団体「Soleil(ソレイユ)」が、本市の「オーガニックなまちづくり」に共感したことをきっかけに、木更津市立金田小学校5年生に対して食育、環境、地産地消、SDGsなどをテーマに4回の授業を行いました。また、授業最終日には、Soleilと栄養士が考えた環境負荷に配慮した給食を全学年に提供しました。

結果

児童はクイズやゲーム形式の授業で、SDGsや環境に配慮した食材選びなどについて楽しく学ぶことができました。また、取り組み終了後に行った児童・保護者のアンケートでは、児童の環境問題や地産地消に対する意識の向上だけでなく、児童を通して保護者にも買い物時の意識変化が見られるようになりました。



消費関連の取り組み

③「きさらづ学校給食米」の商標登録とふるさと納税返礼品への活用

目的

- ・「きさらづ学校給食米」を市オリジナルブランドにするための商標登録
- ・多くの方に知ってもらうため、ふるさと納税返礼品に活用

内容

米袋、デザインシールの制作



千葉県木更津市



オーガニックビレッジ宣言

木更津市では、令和元年度から「学校給食提供に向けた有機米プロジェクト」を開始しました。

学校給食米100%オーガニック化を基軸とした有機農業を推進するため、「みどりの食料システム戦略推進交付金」を活用し、生産、加工・流通、消費の各段階における様々な取組を行っております。

今後、農業をはじめとした人との有機的なつながりや自然環境を大切にし、持続可能なまちとして次世代に継承していきます。

木更津市は、有機農業を推進し、「オーガニックシティ」の確立を目指すことをここに宣言します。

令和5年3月23日

木更津市長